

# 大阪教育大学教育学部 学位プログラム

---

【 2026 】



大阪教育大学

# 学位プログラムとは

学位プログラムとは、**到達目標(卒業までに身に付ける力)**の達成のために体系的に編成された教育課程のことです。

本学では、  
学部・課程・学  
科・専攻ごとに  
3つのポリシー  
を策定し、

卒業認定・学位授与の方針 (DP ディプロマ・ポリシー)

教育課程編成・実施の方針 (CP カリキュラム・ポリシー)

入学者受入れの方針 (AP アドミッション・ポリシー)

卒業時に**到達目標**  
を達成するための  
カリキュラムを編  
成・実施します

## 到達目標 (卒業までに身に付ける力)

教員養成課程	教育協働学科
①豊かな教養と広い視野	①豊かな教養と広い視野
②教職に必要な素質	②教育理解
③指導内容の理解と実践力※1	③協働力
④子どもへの対応の理解	④探究力
⑤ICTや教育データを利活用する力※2	⑤専門的知識・技能
⑥教職力量を自らひらく力	⑥教育協働実践力

※1養護教諭養成課程の③は、養護実践力  
※2学校教育教員養成課程のみ

ディプロマ・ポリシー

卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力

DP

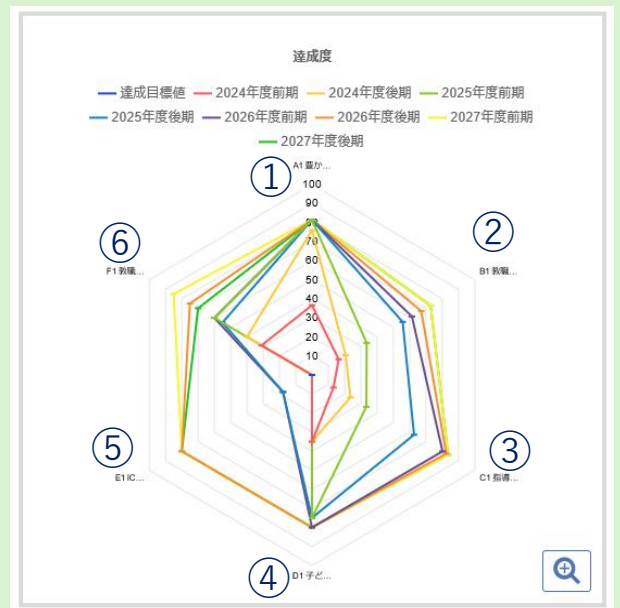
アドミッション・ポリシー  
入学者に求める学力の明確化

AP

カリキュラム・ポリシー  
到達目標を達成するための教育  
課程の編成・実施

CP

## 学修成果評価システム ポートフォリオによる ＜学修成果の可視化＞



学位プログラムの到達目標に対応する授業科目をカリキュラムマップで確認できます。

あなたの学修成果の**到達度**を、学修成果評価システム(ポートフォリオ)のレーダーチャートにより明らかにします。

### ＜カリキュラムマップ＞

到達目標 (卒業までに身に付ける力) と各授業科目の対応関係を、専攻・コースごとに作成しています

◆学校教育教員養成課程 教科教育専攻(国語教育コース) カリキュラムマップ ※大阪教育大学

### ＜科目番号制(ナンバリング)＞

科目番号制 (ナンバリング) により、科目に付されたナンバーから到達目標との対応関係や、学修段階の体系的を確認できます



学部、課程、学科の学位プログラムは  
本学HPからご確認ください



専攻ごとの学位プログラムは、  
P.3以降に掲載しています

# 大阪教育大学教育学部 学位プログラム

【 2026 】

---

## 目 次

---

養成する人材像に必要な資質・能力とは .....	2
学校教育教員養成課程	
幼小教育(幼児教育)プログラム .....	4
幼小教育(小学校教育)プログラム .....	6
次世代教育(教育探究)プログラム .....	8
次世代教育(ICT教育)プログラム .....	10
教科教育プログラム .....	13
特別支援教育プログラム .....	15
小学校教育(夜間)プログラム .....	17
養護教諭養成課程	
養護教育プログラム .....	20
教育協働学科	
教育イノベーション(数理・知能情報)プログラム .....	23
教育イノベーション(環境安全科学)プログラム .....	25
教育コミュニティ支援(心理科学)プログラム .....	27
教育コミュニティ支援(スポーツ健康)プログラム .....	29
教育コミュニティ支援(芸術表現)プログラム .....	31
グローバル教育(日本語教育)プログラム .....	33
グローバル教育(国際協働英語)プログラム .....	35

# 養成する人材像に必要な資質・能力とは？

本学では、教員や教育協働人材に求められる資質・能力を次のとおり設定しています。

この資質・能力を基準として、履修カルテを活用し、授業やボランティア活動を通して学んだことをふり返し、

次の目標を設定するプロセスを通じて到達点を目指しましょう。

## □豊かな教養と広い視野

- 人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および倫理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- 世界の多様性を理解し、異文化・多文化を需要できる寛容な態度を身に付けている。

## 教員養成課程

### 《教職に必要な素養》

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。教職員や学校園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・子どもを能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

### 《指導内容の理解と実践力》

- ・幼稚園の保育又は小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科や教科外の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校園の実態に応じてカリキュラムマネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や保育・授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構築することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や保育・授業づくりができる。

### 《養護実践力》

- ・養護の理念や思想、看護学、学校保健や学校安全に係る基礎論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。
- ・健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。
- ・子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、保健管理や保健教育等の実践や学校園務等にICTを活用することができる。

### 《子どもへの対応の理解》

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

### 《ICTや教育データを活用する力》

- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や学校園務等にICTを活用するとともに、幼児・児童・生徒のICT活用能力を育成するための保育や授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児・児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

### 《教職力量を自らひらく力》

- ・実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

## 教育協働学科

### 《教育理解》

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的な知識を身に付けている。

### 《協働力》

- ・他者と協働して課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

### 《探究力》

- ・エビデンスに基づき、客観的に課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な視点から探究することができる。

### 《専門的知識・技能》

- ・所属する専攻・コースの分野に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

### 《教育協働実践力》

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

# 学校教育教員養成課程

## 幼小教育（幼児教育）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、幼児を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえたそう合的な視点を持って教育に当たることのできる実践力のある幼稚園教員を養成します。

幼稚園の保育に必要な知識・技能を修得し、幼児を中心とする保育を通じて、幼児が遊びを通した学び等に主体的に関わるように誘うとともに、小学校教育への接続を踏まえた幼児を理解する力、豊かな表現力及び高度な専門的実践力を身につけた教員の養成をめざします。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

#### （1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

#### （2）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- ・教職員や園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・幼児の能動的に環境に関わる態度を育むことの意義を理解している。

#### （3）指導内容の理解と実践力

- ・保育の各領域の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・幼児教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や領域横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、幼稚園の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・幼児の興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、保育の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・保育環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、幼児一人一人の特性に応じた指導計画の立案ができる。

#### （4）子どもへの対応の理解

- ・幼児を保育する意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、幼児に応じた指導や集団での保育を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と幼児を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・幼児の心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある幼児や障がいのある幼児など、特別な配慮や支援を必要とする幼児の特性や社会的包摂の理念を理解した上で、幼稚園教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。

#### （5）ICT活用や教育データを利活用する力

- ・幼稚園におけるICTの活用の意義を理解し、保育や園務等にICTを活用するとともに、幼児の直接的・具体的な体験を基盤としながらICTを活用した保育を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児の学びの改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

#### （6）教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、幼児と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「幼小連携教育論Ⅰ・Ⅱ」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、保育内容指導法科目、領域専門科目、小学校の各教科に係る教科専門科目、専門教育としての幼稚園教育専門科目と、「幼児教育課程論」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「幼児理解と教育相談」、「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「幼児教育指導法」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組む。

### ◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、領域や小学校教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、幼稚園等での教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。            教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>また、幼児の発達および学びの基礎的課程とその「みとり」、幼児の情動と社会性の発達、障がいのある子どもの理解と支援、保護者の支援などについて理解する。</p> <p>幼児理解と教育相談のための基本姿勢を確認するとともに、各理論の統合的理解や、方法のマルチ・メソッド的な適用をするための観点を学ぶとともに、感情労働についても理解を深める。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や幼児教育における子どもの多様性について理解を深め、保育現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>幼稚園教諭として必要となる各領域に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>幼稚園での保育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>幼稚園教育要領を踏まえ、今日の保育実践の方法と技術を身につける。そのために、附属幼稚園や公立幼稚園などでの観察の機会をなるべく多くもつ。</p> <p>また、幼稚園教諭として必要となる保育内容に関する基礎的知識・技能を総合的に修得するとともに、「幼児教育インターンシップ」による現場観察・体験活動を通じて、様々な業務の理解を含む教職実践に向けた基礎的知識・技能を習得する。</p>
3 回生	<p>幼稚園教育要領の特徴や変遷などをふまえ、教育課程編成の視点を学ぶ。また、実践的な模擬保育、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>「しろうがい共生」「多文化共生」「子育て支援」などをめぐって、知識の更新と、相互触発を行う力量をつける。</p> <p>また、これまでの科目を修得した上で附属幼稚園での実習を行い、保育現場における経験から、成果と課題を再認識する。</p> <p>その後、最新の保育課題や子育ての課題や対策実践についての知見を、各種メディアや専門研修機関の情報誌やサイトを通して主体的に収集する。そして、その知見を吟味し、自らの意見を述べあうことで、実践の主体者としての意識を涵養する。</p>
4 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

## 幼小教育（小学校教育）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、児童を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえた総合的な視点を持って教育に当たることのできる実践力のある小学校教員を養成します。

幼児教育からの接続を踏まえた小学校の全教科にわたる教科指導に必要な知識・技能を修得し、児童を自律的な学習者として導くことを目的として、児童の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、学校教育の質の向上に寄与することができる教員の養成をめざします。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

#### （1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

#### （2）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

#### （3）指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構築することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

#### （4）子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要な基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

#### （5）ICT活用や教育データを利活用する力

- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、児童のICT活用能力を育成するための授業を構築することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

#### （6）教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「幼小連携教育論Ⅰ・Ⅱ」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、教職や教育実践、教科教育からなる系列専門科目などの科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「ICT活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、領域や小学校教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、小学校等での教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。                      教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。                      児童の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。                      ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。                      また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。                      情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。                      学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。                      さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。                      教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。                      子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。                      また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。                      附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。                      4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

次世代教育（教育探究）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師、すなわち、学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく、児童・生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき、次世代の学校教育をけん引できる教員を養成します。

子ども一人一人の特性や学習到達度等に応じた個別最適な学び、各教科での学習を実社会での課題発見・解決に活かしていくための教科横断的な学び、学びへの意欲を引き出すためのファシリテーション、子どもたちの多様化への対応等に関する知識・技能を基盤に、学習者を中心とする主体的・対話的で深い学びと他者と協働した探究的な学びを通じて児童・生徒を自律的な学習者へと導くための学習指導と生徒指導のあり方を探究し続ける教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科や教育学、心理学、道徳教育学を踏まえた現代の教育課題に対応するための指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

（４）子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要な基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

（５）ICTや教育データを利活用する力

- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、児童のICT活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

（６）教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、「学校におけるICT活用」、「インクルーシブ教育実践論」からなる専攻共通科目、教育学、心理学、道徳教育学に加えて現代的教育課題に対応するための専門的知識・技能を修得するコース専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「ICT活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、小学校教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、小学校等での教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。                      教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。                      児童の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。                      ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。                      小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。                      また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。                      情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。                      学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また、教材研究・開発の方法を修得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。                      道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。                      さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもとの問題行動について理解する。                      子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。                      また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。                      附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。                      4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

次世代教育（ICT 教育）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師、すなわち、学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく、児童・生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき、次世代の学校教育をけん引できる教員を養成します。

ICT リテラシー、データサイエンス、プログラミング、デジタル教材活用等に関する高度な専門的知識・技能を修得し、学校内の ICT 普及促進、ICT 活用による校務効率化や授業開発などの教育課題の発見・解決や、学習履歴等教育ビッグデータの活用による学校教育の質の向上について、リーダー的役割を担える教員の養成をめざします。

なお、卒業要件を満たすことにより取得できる教員免許状を、①高等学校教諭一種免許状（情報）及び小学校教諭一種免許状、②高等学校教諭一種免許状（情報）、中学校教諭一種免許状（数学）及び高等学校教諭一種免許状（数学）とし、①②のいずれかを選択して履修します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

(1) 豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT 活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

(2) 教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童・生徒を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

(3) 指導内容の理解と実践力

- ・高等学校及び小学校の各教科又は中学校・高等学校の教科指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

(4) 子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要な基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) ICT や教育データを利活用する力

- ・学校における ICT の活用の意義を理解し、授業や校務等に ICT を活用するとともに、児童・生徒の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、「学校におけるICT活用」、「インクルーシブ教育実践論」からなる専攻共通科目、情報（ICTリテラシー、データサイエンス、プログラミングなど）に関する専門的知識・技能を修得するコース専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。さらに①では、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目を、②では、数学に関する専門科目を編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「ICT活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標（ICT教育コース①）

履修回生	到達目標
1回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。                      教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。                      児童・生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。                      ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。                      教育現場でのICT活用や情報科学の入門にあたる知識・技能を修得する。                      小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。                      また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。                      情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。                      学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、小学校教諭及び情報科教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。                      また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。                      道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。                      さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。                      子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。                      また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。                      附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。                      4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

◆各回生の到達目標 (ICT 教育コース②)

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。                      教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。                      生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。                      ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。                      教育現場での ICT 活用や情報科学の入門にあたる知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。                      また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。                      情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。                      学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、数学科教諭及び情報科教諭に必要な基礎的な知識・技能や方法を修得する。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。                      道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的な知識を修得する。                      さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的な知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。                      子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。                      ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。                      また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。                      附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的な知識と技能を修得する。                      4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

教科教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

<p>本プログラムでは、小・中・高等学校の各教科指導に必要な知識・技能を修得し、児童・生徒を自律的な学習者へと導くことを目的として、児童・生徒の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実にに向けた授業改善に取り組みながら、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある教員を養成します。</p> <p>そのために、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、各教科の専門性を踏まえ、子どもの実態に応じた教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を養います。コースには、国語教育、英語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、技術教育、家政教育、保健体育、音楽教育、美術・書道教育があります。</p>
---

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

<p>(1) 豊かな教養と広い視野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。</li> <li>・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。</li> </ul>
<p>(2) 教職に必要な素養</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。</li> <li>・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。</li> <li>・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。</li> <li>・児童・生徒を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。</li> </ul>
<p>(3) 指導内容の理解と実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。</li> <li>・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。</li> <li>・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。</li> <li>・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実にに向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。</li> </ul>
<p>(4) 子どもへの対応の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。</li> <li>・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。</li> <li>・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。</li> <li>・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。</li> <li>・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。</li> <li>・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。</li> </ul>
<p>(5) ICTや教育データを利活用する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、児童・生徒のICT活用能力を育成するための授業を構想することができる。</li> <li>・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。</li> </ul>
<p>(6) 教職力量を自らひらく力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。</li> <li>・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。</li> <li>・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。</li> </ul>

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、各教科に関する専門的知識・技能を修得するコース専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「ICT活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>児童・生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>小学校教諭及び中学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、小学校教諭及び中学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。</p> <p>また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3回生	<p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。</p> <p>また、小・中学校教諭として必要となる教科に関する高度な専門的知識・技能を修得し、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

## 特別支援教育プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、特別支援学校及び通常の学校における特別支援教育の各領域を指導するために必要な知識・技能と児童・生徒を自律的な学習者として導く視点を有し、子どもの多様性の理解のもと、児童・生徒一人一人の学びに寄り添い、学習者に応じた学習指導を行うとともに、インクルーシブ教育の理念と環境整備の必要性を理解して、障がいのある子どもと障がいのない子どもがともに学ぶ教育を担うことのできる教員を養成します。

学生は2年次以降、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、発達障がいの6つの障がい種のいずれかのコースに所属して、それぞれの専門領域に関する授業や学校インターンシップ科目を受講し専門性を深めるとともに、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育全般にわたる幅広い知識・技能を身に付けます。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

- (1) 豊かな教養と広い視野
  - ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
  - ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
- (2) 教職に必要な素養
  - ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
  - ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
  - ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
  - ・児童・生徒を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。
- (3) 指導内容の理解と実践力
  - ・小学校の各教科及び特別支援教育の各領域を指導するために必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
  - ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
  - ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
  - ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。
- (4) 子どもへの対応の理解
  - ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
  - ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
  - ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要な基礎的な知識を身に付けている。
  - ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
  - ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
  - ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
- (5) ICTや教育データを利活用する力
  - ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、児童・生徒のICT活用能力を育成するための授業を構想することができる。
  - ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
- (6) 教職力量を自らひらく力
  - ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
  - ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
  - ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「人権教育の基礎」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、特別支援教育の高度な理解に資する特別支援教育専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「ICT活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人</li> <li>●教職に必要な知識や技能、特別支援教育に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人</li> <li>●社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人</li> <li>●子どもたちの、成長に関わることへの関心があり、特別支援教育に携わる教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人</li> </ul>
---

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>児童・生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>特別支援学校教諭として必要となる特別支援教育に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、特別支援学校教諭に必要な視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の技能や方法、通常の学校のユニバーサルデザインの授業等に対する基礎的知識・技能を身に付ける。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。</p> <p>また、特別支援学校教諭として必要となる視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の知識や技能及び方法に対する理解を深め、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

小学校教育（夜間）5年プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

#### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、屋間の勤労経験や教育現場でのインターンシップ活動など豊富な経験をもとに、豊かな人間性と社会性や優れた実践的能力を備え、かつ、小学校の全教科にわたる教科指導に必要な知識・技能を有し、児童を自律的な学習者として導くことを目的として、児童の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、個々の多様な経験に基づく知識・技能を生かして学校教育の質の向上に寄与することができる個性豊かな教員を養成します。

#### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

##### （1）豊かな教養と広い視野

・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。  
・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

##### （2）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。  
・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。  
・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。  
・児童を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

##### （3）指導内容の理解と実践力

・小学校の各教科の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。  
・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。  
・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構築することができる。  
・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

##### （4）子どもへの対応の理解

・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。  
・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。  
・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要な基礎的な知識を身に付けている。  
・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。  
・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。  
・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

##### （5）ICTや教育データを利活用する力

・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、児童のICT活用能力を育成するための授業を構築することができる。  
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

##### （6）教職力量を自らひらく力

・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。  
・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。  
・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

#### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「保育と子ども」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全 a・b」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、教職や教育実践、教科教育からなる系列専門科目などの科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習 I」や「学習者中心の授業デザイン I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学 a・b」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論 a・b」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICTや教育データを利活用する力を育成するため、「ICT活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、小学校で教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。 ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。 小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
2回生	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。 小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。 学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
3回生	人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 児童の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。 教員が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付ける。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。
4回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身に付ける。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。 学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。
5回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。 これまでの科目を修得した上で協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。 5年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

# 養護教諭養成課程

## 養護教育プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

養護教育プログラムでは、教育学の基礎の上に、医学・看護学・養護学など、幅広い専門分野の基礎知識と実践能力を備え、健康を保持増進する能力を子どもたちが獲得できるように、様々な機会を捉え支援する資質を備えた養護教諭を養成します。そのため、幅広い教養教育の基礎の上に立って、各専門分野の学習を深めるとともに、臨床（病院）実習、養護実習などをとおして実践能力の向上をめざします。さらに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

#### （1）豊かな教養と広い視野

・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。  
・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

#### （2）教職に必要な素養

・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。  
・教職員や学校園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。  
・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。  
・子どもを能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

#### （3）養護実践力

・養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。  
・健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。  
・子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。  
・学校におけるICTの活用の意義を理解し、保健管理や保健教育等の実践や学校園務等にICTを活用することができる。

#### （4）子どもへの対応の理解

・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。  
・教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校園外の専門家等と連携する重要性を理解している。  
・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。  
・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。  
・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

#### （5）教職力量を自らひらく力

・実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。  
・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。  
・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「人権教育の基礎」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 養護実践力を育成するため、「学校保健」、「養護学」や「救急処置」、「健康相談活動の理論と方法」などの養護教育専門科目をICT活用の実践を盛り込みながら体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「養護実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し、授業改善に取り組む。

### ◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 養護教諭をめざすために必要な基礎学力があり、十分な教育実践力を身に付けようとする意欲にあふれる人
  - 養護教諭になることを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
  - 子どもたちの健康な学校生活を支援することにやりがいと使命を感じる人
  - 人と明るく温かなコミュニケーションが図れる能力や個性を備えている人
- ※生物、化学を入学までに学習していることが望ましい。

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。            教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>幼児・児童・生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>養護教諭として、からだの構造・機能、子どもの発育・発達に関する基礎的知識を修得するとともに、子どもの健康の保持増進を考えていく上で必要不可欠な基本的理念・知識を体系的に理解する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>健康診断、保健教育や保健室経営等における養護教諭として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>子どもの援助と指導に関して、看護学・精神保健学の基本的理論と技法・技能を修得する。</p> <p>さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>健康相談の知識・技能を修得するとともに、救急処置実習・臨床実習を通して、実践的な更なる技能の向上を図り、養護実習の履修前に知識・技能を深める。</p> <p>養護実習を行い学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4 回生	<p>養護教諭になるために必要な養護専門科目の履修と卒業研究を通して、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の集大成として養護教諭として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

# 教育協働学科

教育イノベーション（数理・知能情報）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは数理・AI・データサイエンスに関する高度な専門的知識・技能を効果的に活用し、学校や教育関連企業と連携・協働して、データ分析や情報マネジメントによる教育現場のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することにより、多様な教育課題の解決方法を創造できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（2）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（3）協働力

- ・他者と協働して数理・AI・データサイエンスに関する課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（4）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的に数理・AI・データサイエンスに関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

（5）専門的知識・技能

- ・数理・AI・データサイエンスに係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

（6）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、数理・AI・データサイエンスに関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、数理・AI・データサイエンスに関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 数理・AI・データサイエンスに関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 数理・AI・データサイエンスに関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的な好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる数理・AI・データサイエンスに関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる数理・AI・データサイエンスに関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる数理・AI・データサイエンスに関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

教育イノベーション（環境安全科学）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは自然科学や生活科学、安全科学など多様な専門的知識・技能を融合し、学校や教育関連企業、行政、自治体などと連携・協働して、身の回りの環境から地球環境に至る幅広い課題を探究することにより、多様な教育課題の解決方法を創造できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

(1) 豊かな教養と広い視野

・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。  
・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

(2) 教育理解

・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。  
・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

(3) 協働力

・他者と協働して自然科学や生活科学、安全科学などに関する課題を分析し、その課題を整理することができる。  
・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。  
・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

(4) 探究力

・エビデンスに基づき、客観的に自然科学や生活科学、安全科学などに関する課題を分析することができる。  
・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。  
・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

(5) 専門的知識・技能

・自然科学や生活科学、安全科学などに関する専門的知識・技能を備えている。  
・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。  
・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

(6) 教育協働実践力

・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、自然科学や生活科学、安全科学などに関する課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、自然科学や生活科学、安全科学などに関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 自然科学や生活科学、安全科学などに関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 自然科学や生活科学、安全科学などに関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる自然科学や生活科学，安全科学などに関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる自然科学や生活科学，安全科学などに関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる自然科学や生活科学，安全科学などに関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

## 教育コミュニティ支援（心理科学）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、人間の生涯にわたる心理や社会の課題を解決するために必要な理論やスキル、および人間の発達とコミュニティのあり方に関する知識を修得し、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、人々が安心して生活できる社会のあり方を探究することにより、多様な教育課題の解決を支援できる人材を養成します。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

#### （1）豊かな教養と広い視野

・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。  
・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

#### （2）教育理解

・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。  
・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

#### （3）協働力

・他者と協働して、社会や教育現場における課題を心理学や生涯教育学、社会福祉学の視点から分析、整理することができる。  
・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。  
・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

#### （4）探究力

・エビデンスに基づき、客観的に心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する課題を分析することができる。  
・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。  
・諸分野の知見を集約し組み合わせて、横断的な観点から探究することができる。

#### （5）専門的知識・技能

・心理学や生涯教育学、社会福祉学に係る専門的知識・技能を備えている。  
・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。  
・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

#### （6）教育協働実践力

・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、心理学や生涯教育学、社会福祉学に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

### ◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 心理学や生涯教育学・社会教育学、社会福祉学に関する専門的な知識とスキルを身につけ、学校や地域との連携・協働のもと、多様な教育課題の改善や解決に貢献する意欲のある人
- 公認心理師、社会教育主事・社会教育士、図書館司書、社会福祉主事、児童心理司、児童福祉司などの資格等を取得することに関心のある人

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。            教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史、子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。            ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。            教育協働人材として必要となる心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する基礎的知識を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに、社会教育や教育協働に関する関心を深める。            教育協働人材として必要となる心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する基礎的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。            また、教育協働の概念を踏まえ、アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。            また、教育協働の概念を踏まえ、教育コラボレーション演習、コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし、教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し、課題克服に努めるとともに、創造探究演習Ⅳの学びを通じて、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

## 教育コミュニティ支援（スポーツ健康）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、高いスポーツ実技力を有した学生がスポーツの普遍的価値と社会における有用性、人間の心理的発達や機能発達におけるスポーツの重要性と有効性、心身の健康や運動行動、スポーツ活動などについての原理や方法を学びます。そして、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、様々な人々が安全かつ健康にスポーツを実践・交流することができる指導力を身に付け、多様な教育課題の解決を支援できる人材を養成します。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

#### （1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

#### （2）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

#### （3）協働力

- ・他者と協働してスポーツや健康に関する課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

#### （4）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的にスポーツや健康に関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

#### （5）専門的知識・技能

- ・スポーツや健康に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

#### （6）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、スポーツや健康に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、スポーツや健康に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

### ◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高いスポーツ実技力ならびにスポーツと健康に関する専門性と教育理解を備え、専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校や地域と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を図る意欲のある人
- スポーツや健康に関する高度な知識や技能、さらには様々なニーズに対応できるスポーツ実践力を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的的好奇心、人間への深い愛情と理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。            教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。            ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。            教育協働人材として必要となるスポーツや健康に関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。            教育協働人材として必要となるスポーツや健康に関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。            また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となるスポーツや健康に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。            また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

## 教育コミュニティ支援（芸術表現）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

### ◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、音楽及び美術の普遍的価値と人間社会における有用性ならびに人間の心理的発達における芸術の重要性と有効性を理解し、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、芸術の実践と交流によって社会における様々な人々をつなぐ方策を探究することにより、多様な教育課題の解決を支援できる人材を養成します。

### ◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

#### （1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

#### （2）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理的理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

#### （3）協働力

- ・他者と協働して音楽及び美術に関する課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

#### （4）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的に音楽及び美術に関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

#### （5）専門的知識・技能

- ・音楽及び美術に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

#### （6）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

### ◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、音楽及び美術に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、音楽及び美術に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し、授業改善に取り組む。

### ◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 芸術に興味・関心を持ち、教育及び芸術文化の発展に幅広く貢献したい人
- 専門領域の高度な表現能力を修得し、地域社会や学校教育現場で指導力を発揮したいと志す人
- コミュニケーション能力を発揮し、他の人々と協働し、教育及び芸術文化の多様な課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 教育や社会における芸術表現の在り方について、実践的かつ持続的な活動を通して探求できる人
- 複雑化した現代社会において、人間らしく生きるための糧となる芸術の本質を追求・理解したい人

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史、子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる音楽及び美術に関する基礎的知識を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに、社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる音楽及び美術に関する専門的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる音楽及び美術に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、教育コラボレーション演習、コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし、教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し、課題克服に努めるとともに、創造探究演習Ⅳの学びを通じて、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

グローバル教育（日本語教育）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、日本語及び日本文化に関する専門的知識を修得し、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推進することにより、多様な教育課題の解決方法を創造できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

<p>(1) 豊かな教養と広い視野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。</li> <li>・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。</li> </ul>
<p>(2) 教育理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。</li> <li>・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。</li> </ul>
<p>(3) 協働力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働して日本語及び日本文化に関する問題を分析し、その課題を整理することができる。</li> <li>・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。</li> <li>・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。</li> </ul>
<p>(4) 探究力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エビデンスに基づき、客観的に日本語及び日本文化に関する課題を分析することができる。</li> <li>・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。</li> <li>・諸分野の知見を集約し組み合わせて、横断的な観点から探究することができる。</li> </ul>
<p>(5) 専門的知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語及び日本文化に係る専門的知識・技能を備えている。</li> <li>・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。</li> <li>・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。</li> </ul>
<p>(6) 教育協働実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。</li> </ul>

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。</li> <li>●教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。</li> <li>●協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。</li> <li>●探究力を育成するため、日本語及び日本文化に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。</li> <li>●専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、日本語及び日本文化に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。</li> <li>●教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。</li> <li>●各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。</li> <li>●成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。</li> <li>●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組む。</li> </ul>
---

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本語・日本文化に関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人</li> <li>●日本語・日本文化に関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人</li> <li>●確かな学力と旺盛な知的な好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人</li> </ul>
---

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史、子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる日本語及び日本文化に関する基礎的知識を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに、社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる日本語及び日本文化に関する基礎的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる日本語及び日本文化に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、教育コラボレーション演習、コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし、教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し、課題克服に努めるとともに、創造探究演習Ⅳの学びを通じて、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

グローバル教育（国際協働英語）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、異なる文化、考え方を尊重し、共感を持ちながら、英語の運用能力と発信力を持って積極的にコミュニケーションを行うとともに、各国・地域の教育モデルを深く理解することにより、国際的な視野から新たな教育の在り方の創造や多様な教育課題の解決に貢献できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

<p>(1) 豊かな教養と広い視野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。</li> <li>・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。</li> </ul>
<p>(2) 教育理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。</li> <li>・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。</li> </ul>
<p>(3) 協働力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働して高度な英語運用能力と国際協働に関する問題を分析し、その課題を整理することができる。</li> <li>・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。</li> <li>・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。</li> </ul>
<p>(4) 探究力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エビデンスに基づき、客観的に高度な英語運用能力と国際協働に関する課題を分析することができる。</li> <li>・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。</li> <li>・諸分野の知見を集約し組み合わせて、横断的な観点から探究することができる。</li> </ul>
<p>(5) 専門的知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英語運用能力と国際協働に係る専門的知識・技能を備えている。</li> <li>・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。</li> <li>・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。</li> </ul>
<p>(6) 教育協働実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。</li> </ul>

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。</li> <li>●教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。</li> <li>●協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。</li> <li>●探究力を育成するため、高度な英語運用能力と国際協働に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。</li> <li>●専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、高度な英語運用能力と国際協働に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。</li> <li>●教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。</li> <li>●各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。</li> <li>●成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。</li> <li>●指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し、授業改善に取り組む。</li> </ul>
---

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●高度な英語運用能力と国際協働に関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人</li> <li>●高度な英語運用能力と国際協働に関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人</li> <li>●確かな学力と旺盛な知的好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人</li> </ul>
--

## ◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史、子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる高度な英語運用能力と国際協働に関する基礎的知識を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに、社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる高度な英語運用能力と国際協働に関する基礎的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる高度な英語運用能力と国際協働に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、教育コラボレーション演習、コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし、教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し、課題克服に努めるとともに、創造探究演習Ⅳの学びを通じて、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

# 学生調査へのご協力をお願い

大阪教育大学では、入学から卒業・修了までの学習状況等について調査を行い、本学の教育の成果・効果を把握・分析することにより、今後の教育及び学生支援を改善・充実し、社会に求められる人材の輩出に役立てる取組を実施しています。

あなたの回答が、大阪教育大学の教育・学生支援の活動に繋がっていきます

## 調査結果 卒業時調査2022

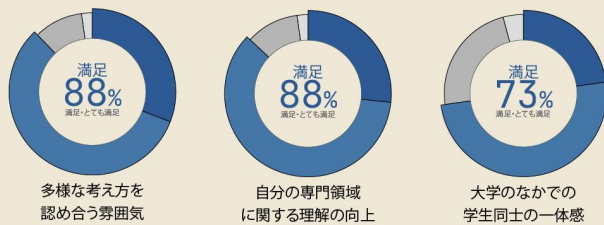
調査へ回答いただいた方の割合  
回答率 85%

### ディプロマポリシーに関連した成長実感 「身についた」回答率(やや身についた、及び、とても身についた)

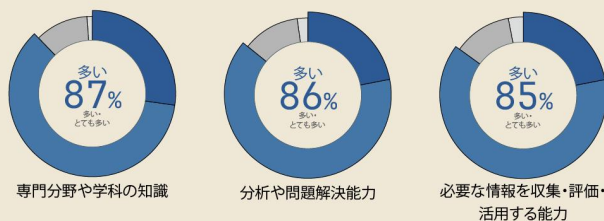


全ての選択肢: 全く身につかなかった・あまり身につかなかった・どちらともいえない・やや身についた・とても身についた

### 大学の満足度



### 大学生生活を通じて身についた能力

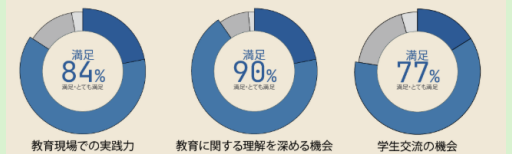


大学から調査のお知らせが届きましたら、ご回答をお願いします

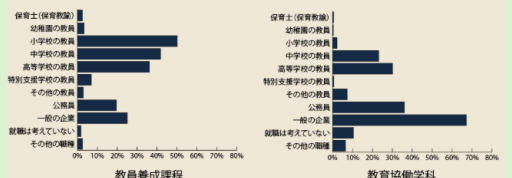
## 調査結果 大学生学習調査2023

調査へ回答いただいた方の割合  
回答率 54%

### 大学の満足度



### 卒業後の希望職種 (3つまで選択)



調査結果はこちらから  
卒業生・先輩の回答は...



IR | 国立大学法人 大阪教育大学

学位プログラムで定められた

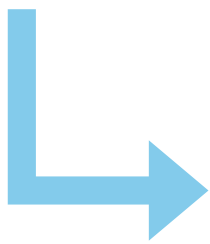
**到達目標(卒業までに身に付ける力)** への到達度を

学修成果評価システム(学修ポートフォリオ)の入力により  
可視化しています。

入力方法など、詳しくは入学時に配布した冊子

**「大阪教育大学教育学部 学修成果評価システム**

**学修ポートフォリオ(学びの履歴)」** をご覧ください。



国立大学法人

**大阪教育大学**

大阪教育大学 教務課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL.072-978-3265

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/>